

鹿屋市国際交流協会だより

～グローバル～

2023年
10月発行 No. 29

かのやし
こくさいこうりゅう
きょうかいだより

かのやしこくさいこうりゅうきょうかい
鹿屋市国際交流協会

(KIEA: Kanoya International Exchange Association)



KIEA(キア)は、市民・民間団体・行政が協力して活動する国際交流団体です。平成8年に発足しました。外国文化の紹介や、地域での国際交流イベントなどを開催しています。

会長あいさつ

残暑厳しき折、会員の皆様におかれましては、かねてより当協会の活動に対するご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

3年余り続いた新型コロナウイルス感染症の流行もようやく下火になり、様々な制限がなくなりつつあるようです。当協会の活動も徐々にではありますが本来の姿になりつつあります。

そのような状況の中、広報誌グローバルを発行することにより、皆様に当協会の活動内容をご紹介できることをたいへん喜ばしく思います。

今後もこれまでと同様、少しでも会員の皆様に喜んでもらえますよう、地道に活動を続けてまいりたいと存じますので、変わらぬご指導、ご助言を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

鹿屋市国際交流協会 会長 坂元 浩幸

鹿児島県青少年国際協力体験事業

「世界へ飛び出せ!スタディツアー in マレーシア」

国際性豊かな人材の育成を図ることを目的として実施された本事業に、鹿屋市国際交流協会からの推薦により、鹿屋高校の久保田 紗那さん(1年生)と朝田 真央さん(2年生)が派遣されました。

派遣帰国報告

●どのようなことが最も印象に残っていますか?



朝田 真央さん

ホームステイが一番楽しくて心に残っています。ホストファミリーは心優しく、温かく、居心地が良かったです。家族みんなでニコニコしながら過ごした時間は最高に幸せでした。(以降: 朝)



久保田 紗那さん

私も、ホストファミリーと過ごした4日間です。みんな本当に仲が良く、村の人全員との思い出をつくることができました。(以降: 久)

●ホームステイ中は、どのようにして過ごしましたか?

①1日目は皆でお互いの家族のことを話したりして、団らんの時間を過ごしました。2～4日目は、他のホストファミリーと一緒に観光したり、ご飯を食べたり、本当の家族として過ごしました。

KKB
鹿児島放送さま製作
マレーシア体験記
(ここから動画が見られます)▼



友達になつて
ください!

鹿屋市国際交流協会のイベント情報などをお届けしています!



LINE
公式アカウント



LINEアプリの「友だち追加」から登録してください。

方法① 左の二次元コードを撮影

方法② ID検索 @478disiv

●マレーシアでは何語が話されていましたか？

朝 ほとんどがマレー語。伝わらないときは英語が使われていました。マレーシアの学生は英語がすごく話せる！マレー語が完璧ではなかったの、最初はホストファミリーが何を言っているのか分からず「どうしよう…」と思っていましたが、指さし会話帳やジェスチャーを使って積極的に交流すると急に距離が縮まって、もっと仲良くなれました。

●ホームステイ先では、何が主食でしたか？

朝 白いご飯

●マレーシアと日本で似ているところはありましたか。

朝 温かい家庭で幸せに暮らしていること。違っていた点は、お祈りをする時間があること、食卓に大きなアリがいること、1日に6回食事をする、手で食べる、近くにたくさんフルーツの木があること。

久 経済状況は日本と似たような感じでした。

●JICA海外協力隊員の活動視察を通じて、どのようなことを感じ、学びましたか？

視察先

隊員	活動内容
田ノ畑 祥一 隊員 (2022年度3次隊・障がい児・者支援)	マレーシアの特別支援学校にて、児童・生徒への教育支援や教員への指導等
谷口 亮 隊員 (2022年度2次隊・青少年活動)	障がいのある方の就業施設で、商品開発や収入向上等につながる支援活動

久 田ノ畑隊員の学校の子どもたちは私たち派遣団にとってもなついてくれて、みんな優しく、きっと田ノ畑隊員がマレーシアに来たときもすぐ歓迎してくれたんだろうなと思いました。

朝 実際に行動すること、自分が今いる場所や立場で自分にできる精一杯のことをすることを学びました。

久 谷口隊員は、村の子どもたちに対して全力で取り組んでいて、すごいです。子どもに対する想いがすごく強いなと思いました。また、この活動に取り組んだ理由が「どんな人でも海外に行けるチャンスがあるから」だと聞いて、すごくカッコいいなと思いました。

朝 「いろんな人に頼っていいんだよ。たくさん頼ってたくさん助けてもらいなさい。」という言葉が印象的でした。



■名前：黄 維恩
(Huang Wei-en / コウ イオン)

■出身：台湾・高雄市

4月から、鹿屋市上高隈町にあるカピックセンターで、国際交流事業を担当しています。同センターは、地域の方々を対象にした国際理解の研修や、外国人研修生の受け入れを行っています。台湾では、1軒の民宿を経営していました。文化交流と猫が大好きです。大学では、森林学科で勉強していました。自然を大事にしたスロライフを目指しています。

私の出身地、高雄市は台湾の南にあり、鹿児島県とも似ていると思います。市の面積は2,952km²で、275万人が暮らしています。国際空港もある大きな都市ですが、周りに海と山があり、桜島とよく似ている旗津という名前の島があります。島には、桜島フェリーのような船で渡ります。



た。いろんな角度で考えたり、見たりすることの大切さを学びました。

●今回の派遣を通じて、どのようなことを学びましたか？

④ 自分がよく知らないことに対して、勝手に偏見を持つべきではないということがよく分かりました。

⑤ 海外に対する自分の思いが変わりました。また、偏見で「言葉の壁」は分厚いと思っていましたが、今回ホストファミリーが頑張って理解しようとしてくれたことが、心の底から嬉しかったです！何も知らずに偏見を持つことはダメだということを学びました。

●今回の体験を今後どのように活かしていきたいですか？

⑥ 今回少しではあるけれど、JICAや青年海外協力隊の活動について知ることができました。多くの人に海外への偏見をなくしてもらうため、学んだことを色々な人に伝えたいと思います。また、自分の将来を考えるヒントとしていきたいです。

⑦ 今回の体験を通して、世界で活躍できる人になりたいと思うようになりました。たくさんの国へ行き、自分の目で見て学び、柔軟な考えを持てるようになりたいです。

●最後に一言

⑧ 鹿屋に限らず、鹿児島県内の中高生全員に、ぜひこの体験をしてほしいと心から思います！！

⑨ たくさんの方々のおかげで私は一生心に残る最高の経験ができました。この事業に参加できて良かったです。ありがとうございます。そして私はまた必ず大好きなマレーシアのホストファミリーのところに行くので、その時までにもっとマレー語を勉強します。



★ 次回の鹿児島県青少年国際協力体験事業の募集は、令和6年春ごろを予定しています。

鹿屋市国際交流協会HPや公式LINEで
情報を逃さずGETしよう！



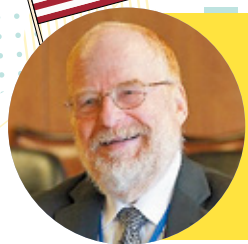
高隈には、絵本作家ターシャ・テューダーの生き方に憧れて移住しました。都会の台湾とは違い、星がきれいに見えるので、毎晩夜空を眺めています。

以前、静岡県のフラワーパークで造園の仕事に関わったことがあるので、鹿屋の名物である薔薇にもとても興味があります。「かのやばら園」は本当にすてきなところだと思います。自然がいっぱいで高隈が大好きですが、Starbucksがあると嬉しいなと思います。



将来は日本と台湾の文化交流事業を通して、鹿児島と台湾の架け橋になればと考えています。また、機会があれば、高隈や鹿屋のいいところを台湾にどんどん発信していきたいです。台湾の美味しいもの、素敵なカフェ、素晴らしい景色などを鹿児島の皆さんに紹介したいと思っています。

みなさまとカピックセンターでお会いできるのを楽しみにしております。



■**名前**: John Dyson

(ジャン・ダイソン)

■**出身**: アメリカ合衆国・
カンザス州

ティが有名です。当時は鉄道の西側終着駅があったため、カウボーイたちはカンザス州に牛を連れてきて、屠殺して東部の市場へ出荷していました。現在でも、人よりも牛の数が多くて有名です。

また、他のどの州より小麦の生産量が多く、農業が産業の中心となっています。世界最大級の草原地帯を有し、広大な草原となだらかな丘陵地帯、自然の美しい所です。ビーフ・バーベキューやカンザス・ジャズも世界的に有名です。面白いことに、大都市カンザスシティは、ミズーリ川によって行政区がカンザス州とミズーリ州に分断されています。州の出身者で最も有名な人は、おそらく映画「オズの魔法使い」のドロシーでしょう。ドロシーは、カンザスへの帰り道を見つけるために「故郷のような場所はない(故郷ほどいい場所はない)」と言い続けました。私にとっても、カンザスは一番の故郷です。

私たちはみんな、人生という旅の「道連れ」だと思います。街で私を見かけたときは、どうか気軽に話しかけてください！国際交流は、一人一人の出会いと交流から始まると思います。

微力ながら、全力を尽くして鹿屋市の国際交流員としてがんばりたいと思います。皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

皆さま、こんにちは。アメリカのカンザス州からまいりました、68才です。妻と3人の子供、7人の孫がいます。鹿屋市の国際交流員となるため、8月に単身来日しました。趣味は、旅行や鄙びた温泉めぐり、キャンプ、川下り、読書、家庭菜園です。

米国内務省で外交官として働いた約30年間、札幌や沖縄、福岡、大阪、名古屋のほか、ネパールやガーナ、ベリゼ、韓国、アフガニスタン、様々な場所に住みました。約10年前に一度引退した後は地域のボランティア活動に取り組んでいましたが、「I'm tired of being retired!」(引退生活に飽きた！)と感じてしまい、鹿屋市役所で新しい生活をスタートさせました。

カンザス州は、多くの観光客に見落とされがちですが、アメリカ大陸の地理的な中心地で、「アメリカのヘソ」として知られています。カウボーイと先住民の歴史に満ちていて、カウボーイの銃撃戦の舞台となったドッジ・シ



スタッフ大募集！！

会員またはボランティアスタッフとして、活動に参加してみませんか？

活動の様子やイベントの情報は、当協会のホームページや公式LINE、Facebookで発信しています。お気軽にお問い合わせください。

イベント情報などをお届けしています！



ホームページ



公式LINE



Facebook

■今後のイベント予定

10月15日(日) 第5回外国人日本語スピーチコンテスト

11月26日(日) 世界の遊び

12月10日(日) クリスマスお菓子の家づくり

2月(日程未定) 世界の料理クッキングサロン